

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホーム はるか (1階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	平成24年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600094-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成24年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・各専門職、関係医療機関等と協力し、今の状態に対しての課題や、必要なケアを見極め、対応させて頂き、ご利用者が心身共に健康に過ごせるように努めています。
・入居者やご家族の方々が感じ訴えられる不安や痛み、不快な思いに丁寧に共感し、根本の原因と解決に向け、一緒に考えさせて頂いています。
・月に1度、「個別の日」という日を設け、個々の生活歴や本人、ご家族とのお話しの中からその人らしさを見出す事、そして実現に努めています。

当事業所は静かな住宅街にあって、近くにはスーパー、商店街、銀行、病院等があり恵まれた環境にある。事業所内は西側一面が開口部となっており明るく、建物内は室温調整や採光が適切にされており、利用者は家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと自分の時間を過ごしている。同じ建物内に同法人の小規模多機能ホーム及び居宅介護事業所が併設されており、利用者同士で趣味や行事を通じて馴染の関係をすることができ、職員も同じ関わりを持つことにより、職員の連携もよく事例を共有しながらケアを行い、利用者は安心して穏やかな日々を過ごしている。地域との交流も盛んに行われ、敬老会、感謝祭などには多数の地域住民が参加し交流している。また、避難訓練に地域住民が参加し地域との連携がとれている。運営者は職員の意見や提案を積極的に取り入れ、職員から提案のあった、事業所内トイレの付帯設備、横と前にも「手すりを設置」して、利用者に安心安全感を与え喜ばれている。利用者は温かみのある家庭的な雰囲気と地域住民との交流の中で、地域の一員として生き生きと生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が みられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

ナルク北海道福祉調査センター

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念を踏まえた事業計画を作成し、その意を共有しつつ事業の実践を行っている。また、施設理念をより実際の業務に浸透させていく為、法人施設全体で取り組んでいる。	法人の基本理念は玄関壁面に額に入れて大きく掲示し、日常生ずる介護に関する疑念は、事業所理念を基本にして考え、徹底して共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、行事に参加している(古紙回収等)はるかで行っている行事にも声を掛け敬老会・感謝祭等では町内の多数の方に参加頂いている。	町内会の古紙回収に協力し、小学校の運動会を見に行っている。事務所の敬老会や感謝祭への参加を回覧板を通じて地元住民に呼びかけている。近所から野菜などの収穫物をもらったり、散歩時に挨拶を交わすなどの交流がある。	事業所行事には地域住民が多数参加し交流しているが、町内会などの地域行事にも積極的に参加し、相互交流が拡大するよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域包括支援センターとの情報交換を行いながら施設の利用者・地域の高齢者との暮らしに役立つ事がないか話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で情報交換を行い、事業計画、防火活動、利用者の生活ぶりの活動報告を行っている。又、会議にて提案されたアドバイスや助言について、取り入れ、改善を行っている。	包括支援センター、民生委員、町内会、老人クラブ、社会福祉協議会、家族代表の委員が、毎回全員出席して年6回開催している。議事録は、会議資料を添付のうえ、会議内容が明記され、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員としてに市地域包括支援センター社会福祉士が加入、また施設広報誌を市介護保険課に送付、市消防との地域合同防災訓練の実施等	運営上の問題やわからないことは、そのつど帯広市担当者の指導助言を受けている。特に成年後見人選任について詳しく説明を聞き、指導を受け協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でマニュアルを作成し全職員に配布しています。また委員会で身体拘束に当たらないか検証し朝のミーティングや各会議等を利用し上司を交え確認を行っている。	法人に身体拘束、感染予防、虐待防止委員会が設置され共通マニュアルがある。その上で研修会を開いて周知徹底を図っている。施錠は防犯のため夜間のみ行い、チャイムを利用して人の出入りに気を配っている。徘徊SOSネットワーク研修に取り組むこととしている。	徘徊SOSネットワークについて、地域との連携を含めて検討される事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員にマニュアルを配布し虐待防止の周知を行っています。日常の介護の中で見逃しが無い職員間でのケアの状況の確認や上司への報告等全職員での虐待防止の取り組みを行っている。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH利用者に対して成年後見人を選定し、支援いただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報保護等について、ご本人、御家族に十分な説明を行い、理解同意を頂いてから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中に家族代表に加入して頂き各行事や運営等に意見を頂いている。	家族の来訪時には会話を交わすこととし、何気ない会話から苦情や意見を汲み上げる努力を重ねている。意見、要望はスタッフ会議などで検討して運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所ごとの会議等や役職会議、統括会議等でさまざまな状況の把握や運営に関わる提案等の検討を行っている。	ケア会議や個別職員面談で出された意見やアイデアは取り入れられて実現することも多く、職員のやる気に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し前期、後期にわたり、スタッフ個々の目標に関する支援のために面接を行い日常的なサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を取り入れる事により、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を行っています。又、年間事業計画に施設内研修や施設外研修を計画しており順次職員が研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、小規模多機能研修を積極的に参加し、ネットワーク作りを行っています。その他ケアマネ研修にも参加しています。又、はるかでの行事の際には他グループホームや包括支援センターにも協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前に必ず面接を行い、利用者や家族が困っていることや、不安に感じていることを聞く機会を作り、その方を知るための基本情報を頂いている。それを活かしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や来所時に利用者やご家族と話をする機会を設け、要望等を聞くように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族にとって、「今」何が必要なのかを考え、その方に合ったサービス、関わり等工夫している。また、チームで共有しながら、職員全体で対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一緒に笑い合ったり、時には相談しながら過ごしていく中で、現在支え合える関係を一緒に探しながら、築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に御家族と協力しながら、生活状況をお知らせしたり状況に応じて協力依頼をさせていただいている。（通院や行事を一緒に楽しむ等）		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在までに培ってきた友人・知人との関係を継続できるよう支援している。本人から得られなくとも、大切にしてきた人や物についてはご家族や暮らしてきた地域から情報を収集し、どこかに繋がりを見出せないかを模索しながら、生活に豊かさを感じて頂けるよう支援に努めている。	馴染みの関係を大事にし、毎月クラス会に出席する利用者に同行支援している。大相撲ファンの利用者に星取表を用意してテレビ観戦を楽しんでもらったり、家族の協力を得て外出や外泊を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごす時間を大切にし、座って頂く座席も工夫しながら互いに負担にならない関係づくりを目指している。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などでサービスを継続出来なくなった場合に、要望があれば次のサービスの相談、申請支援を行ったり、契約終了後も、相談ごとの対応をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心として、アセスメントやモニタリングを実施。会議等でチーム全体に周知し、思いや意向の把握に努めている。合わせて、ご家族の意向も大切にしている。	日々の表情、しぐさ、何気ない会話から意向の把握に努め、意向表出が困難な場合は、家族に問い合わせ情報を把握し、職員が共有して、希望や意向に添うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴をお聞きし、以降もご家族や繋がりがあった地域資源より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当を中心とし、ねらいを持った上でその時々状態把握に努めている。その情報はチーム会議やノートで共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1のチーム会議や日々の中で職員同士の意見交換を密に行い、介護計画を作成している。また、ご家族の意向に沿う事、入居者の心身状態の変化に応じて行くことも心掛けている。	利用者・家族の意向を反映させて、チーム会議で職員全員が参加して意見交換をして介護計画を作成している。通常は6ヶ月で見直し、状況の変化によっては毎月でも変更している。そのつど家族に報告をし、理解と承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の特記やプランの実施状況を記す個別記録や、ホールで起こる全ての事が網羅され、職員間の共有に使用するチームノートを利用し、状態変化等の把握と共有、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族を含めた一人一人のニーズに対し、どうすればそれを可能にできるかを考え対応している。また、併設の多機能ホームや、居宅支援事業所と協力しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域(保育所や学校等)との協力はもちろんであるが、共に暮らしを楽しむ事を忘れず、行事等での交流や互いの役割を確認する事や向上のためにどうしたら良いかの意見交換にも常に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前から利用してきたかかりつけ医との関係の継続に努めるのと同時に、御家族、利用者の納得のもと適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医への通院を支援し、職員が同行している。利用者や家族の意向を尊重して、かかりつけ医にするか提携医かを選択してもらっている。	

帯広けいせい苑グループホーム はるか (1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化の報告。通院後の受診記録、薬の情報を報告している。 状態変化があった時には、すぐに看護職員に相談できる体制を整えている。(休日であっても電話にて指示を受ける)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での状態をすぐに病院に伝え、入院中の様子をご家族から、面会から、電話から知り、今後の見通しを可能な限り早く立てて行く事に努めている。また、退院後に関しても、予後安心して暮らして頂けるよう疾病に関する情報交換や緊急時等に備えた関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しては、医行為が増える事に対応していくことが難しい事を明確説明させて頂いている。しかしながら、本人の状態の把握、ご家族、病院と相談しながら、可能な限り馴染みの場所で暮らして頂けるよう積極的に考えていく事を意識し、支援している。	重度化した場合については、契約時に利用者、家族に説明している。従来は重度化の段階で入院移行が行われ、看取りの事例はない。しかし利用者・家族共に看取りを望む意向があることから、職員、医師、看護師、介護士が連携して看取りを行う体制づくり、研修を通じて意識向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、それを元に対応していく事としているが、初期対応や応急手当の訓練等が課題。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。また日頃より地域の方と関わりを持ち深めながら災害時のご協力とご理解を頂いている。	1回目は日中、2回目は夜間実施。いずれも火災想定で、消防と電気業者を招聘。近隣住民の参加もある。停電、通信網破壊には発電機の備えがあり消防署との直通電話設置、職員の連絡網と非難場所も出来ている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての礼儀を大切にしていきたいと意識し、自分が使われて不快に思わない言葉使いに努めている。	人格やプライドを損ねない配慮、言葉遣い、接遇態度を心がけている。折に触れて事業所理念から考え、基本に立ち戻る。個人情報事は事務所で保管。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その一時一時で何をどうしたいのか、表出できないならば選択肢を用意しながら、選択をするなどの方法も取り入れ、自己決定の尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々のその時の希望に添えるよう努めて行きたいと考え、入居者同士での過ごし方の他、個人としてどう過ごしていきたいか、またその機会を確実に提供できる仕組みを用意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせ、理容出張サービスを理容したり、理容外出も行っている。馴染みの理、美容室を利用している方もいる。		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の盛り付けやおやつ作り等を行っている。食後の下膳から食器洗いまでも取り組んでいる。	職員と一緒に盛り付けや洗い物、おやつ作りをしている。重度化が進行し食事介助が必要になっているが、可能な限り職員も一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の目標水分摂取量を定め、脱水に留意している。液体で摂取できない方に関しては、とろみやゼリー等工夫に努めている。栄養面に関しては、栄養士による献立の組み立てになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のマッサージや食後の口腔清掃等を個々の状態に合わせた口腔ケアを実施している。また随時、往診に来て頂いている歯科医師、衛生士からの指導と助言を受けられる体制を整えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを把握しながら、食前、食後等に声かけやトイレ誘導を行っている。又、排泄の記録から水分や食事、下剤の調整を随時行っている。	利用者の癖やサインを職員全員が共有し、排泄を把握してトイレへ誘導し排泄を支援している。失敗しても、大便が出て良かったねと言って、他人に分らない様に処置する。紙おむつが肌荒れになるときは、布に変更するなどの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の毎日の水分チェック、排泄リズムを把握しながら、可能な限り自然排便を促すべく、朝に冷乳やヨーグルトの摂取、目標水分量の強化や歩行等にて働きかけている。便秘が解消されない場合には、看護師へ相談のもと、下剤を調整する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入浴して頂けるよう体調や希望に配慮しながら実施している。	最低週2回を基本に随時対応している。嫌がる時には無理強いせず、一呼吸置いて声を掛けるなどの工夫をしている。夏など場合によってはシャワーを利用しながら、清潔を保つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には日中活動し、(散歩等)夜間は安眠という生活リズムを意識している。日中でも傾眠がみられる方には居室で休息を取って頂いたり、安楽な姿勢で過ごして頂いたり、気持ちよく過ごして頂けるよう配慮に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方されている服薬の用法容量について、看護師や医療機関と相談をしながら適正に服薬して頂いている。急な体調変化の時はもちろん、定期受診の際も、服薬に準じた日々の様子を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事、興味のある事に繋がれる事は何かを、様々な事に一緒に楽しみながら取り組んでいます。(家事やレク、外出等)		

帯広けいせい苑グループホーム はるか (1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別という事にこだわれるよう、入居者一人一人に月に1度、個別の日という機会を用意し、個人にスポットを当てた活動を実施、継続している。	月に一度は、自宅・喫茶店・アイスクリーム購入など利用者各自の希望を叶える外出を実施している。池田町ワインまつり、紅葉まつり、菊祭り等の季節を感じさせる催しに家族も同行して車で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はさせて頂いていなく、買い物等はGH立替にて支払いをして頂いている。個々には、「事前に頂いている」、「後ほど」という事を伝えてはいるが、お金のやりとりでの大きな混乱や不安に駆られる事を防ぐ事が出来ているのではないかと前向きに捉えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住まいがあるご家族の方もいらっしゃるため、面会、来所の期間に開きがある時には電話連絡等で、職員からの近況報告と、本人と言葉を交わす事のできる機会を作っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や温度・湿度には常に気を配り、乾燥時期には各居室、ホールに加湿器を置き、必要に応じて配慮している。西側一面が開口部の為、西日には気をつけている。	居間の換気・温湿度に配慮し、乾燥時期には加湿器を置く。廊下が広く、周回できて、その周りに利用し易いトイレが配されている。居間は食堂と兼用で居心地が良い。トイレ内に横と前に手すりを設置して、利用者に安心安全感を与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、ソファ空間と食卓テーブルの空間があり、一人一人希望の場所、安全に留意した場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や馴染みの人や物を感じられ、自分の場所と認識でき、かつ安全に気持ち良く過ごして頂けるよう工夫をしている。	居室のベッドは利用者の個性に合わせて配置を工夫している。家具・仏壇など馴染みの物を持ち込んで、自分の家にいると同じように感じられ、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングは、歩行器や、車いすの自走が出来るようにレイアウトし、洗面台のペーパーの位置を低く設置すること、居室等のベットや家具の配置を工夫しながら、動きやすい、使いやすい環境を整えている。		